DeNA の事業戦略と業務改善を大幅に加速する Gemini + AI Agent / MCP による AI Workspace 構想

株式会社ディー・エヌ・エー

グループエグゼクティブ

加茂雄亮



01 DeNA の AI-ALL-IN

02 AI ワークスペースのビルドトラップ

03 データを主軸においたコンテキスト
エンジニアリング PoC / MVP

04 まとめ



加茂 雄亮

グループエグゼクティブ
AI・データ戦略統括部
統括部長

加茂 雄亮

株式会社ディー・エヌ・エー

グループエグゼクティブ
AI・データ統括戦略統括部統括部長

2013 年中途入社。ソフトウェアエンジニアとして DeNA 初の AI プロジェクトを起案・開発し、AI 部門の立ち上げに参画。DeNA グループ全社のデータとAI を管掌するデータ統括部統括部長を担当する。'24 年よりグループエグゼクティブ。経済団体連合会AI 活用戦略タスクフォース委員。



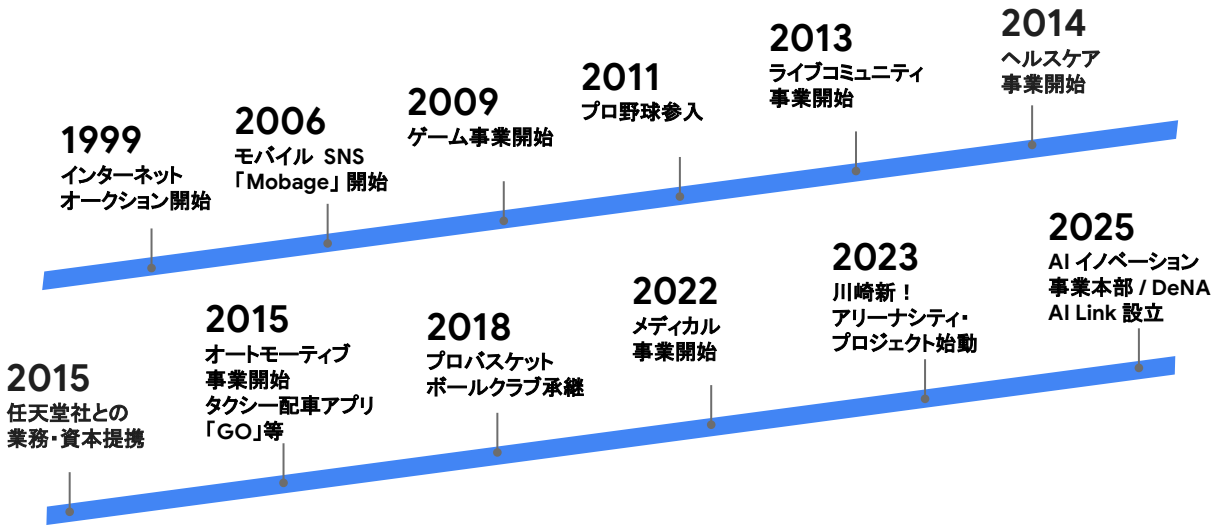
01

DeNA の AI-ALL-IN



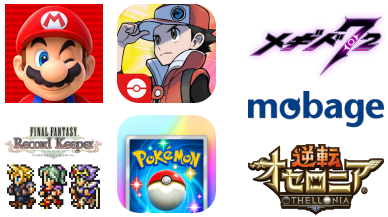
DeNA について

商号	株式会社ディー・エヌ・エー	代表者	南場 智子 (代表取締役会長)
本社	東京都渋谷区		岡村 信悟 (代表取締役社長兼 CEO)
設立	1999 年 3 月	事業内容	ゲーム事業、ライブコミュニティ事業、スポーツ事業、ヘルスケア・メディカル事業、AI イノベーション事業、新規事業・その他
従業員数	連結：2,572 名 (2025 年 3 月時点)		



DeNA が取り組む事業

■ ゲーム



■ ライブコミュニティ

Pococha
voice
Pococha
IRIAM

■ ヘルスケア・メディカル

kencom
MySOS
ONSEI
Join

■ スポーツ・スマートシティ

DeNA BAYSTARS YOKOHAMA
KAWASAKI BRAVE THUNDERS
SCS
川崎新!
BALLPARK FANTASIA

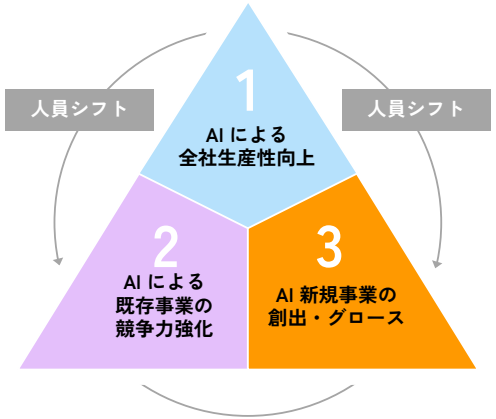
■ 新領域・その他

DeNA AI Link
DeNA × AI
delight ventures

DeNA の AI-ALL-IN 宣言



DeNA グループの AI-ALL-IN の 3 つの視点



「AI に全賭け」「ユニコーンを量産」DeNA 南場会長、社員半数の 1500 人で新規事業（産経新聞）

DeNA 南場会長「現在の事業、人員は半分に」“AI にオールイン” の意思表明　もう半分を新規事業へ（ITmedia）

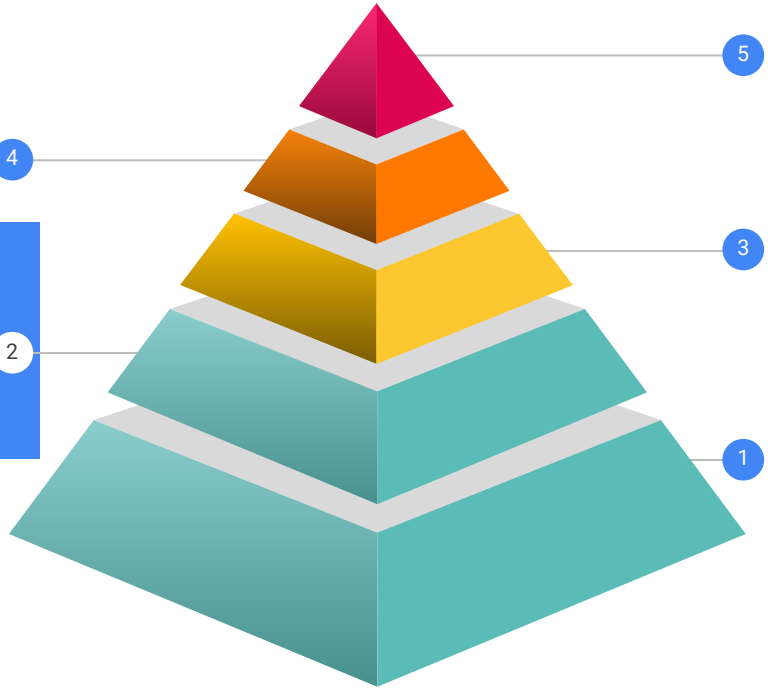
- **DeNA は AI にオールイン**
- （設立から 10 年以内で評価額が 10 億ドル以上になった新興企業を指す）**ユニコーンを量産する**
  DeNA × AI Day || DeNA TechCon 2025 (DeNA 主催で 2 月 5 日に開催したイベント) で発表

DeNA による 5 階建て垂直 AI 戦略

事業トップ戦略 AI
各事業領域において、突破的な事業計画 / 戦略に基づいた収益貢献が大きい AI 活用。

事業個別業務 AI
事業内の連続的な収益施策・個別業務に対するコスト削減・収益向上を目的に、メンバーが解像度高く自身の業務を自動化。

LLM 基盤
全従業員の利用を前提に構築された基盤。Slack で総務/業務質問ができる ChatAI 、業務プロンプト プラット フォーム SAI など、ボトムアップで草の根で活用。



コーポ戦略 AI
デザインやマーケティングなどの共通部門や HR ,法務,経営企画など、コーポ部門のストレッチングな部門目標を支援。

汎用生成 AI ワークスペース
全従業員の生産性向上に影響のある、IT 戦略としてのエンター プライズ向け生成 AI をガバナンス精査から提供支援まで実行。GeminiAdvanced や、GoogleWorkspace 、GCP を軸に AI ワークスペース構想を推進

DeNA
AI Workspace

Clients

Client は多種多様



Gemini

Gemini Advanced
Gemini CLI
NotebooLM
Gemini Enterprise

AI Agent Platform

法務 Agent

社内問い合わせ Agent

Service Data Agent

稟議 / 経費 / 申請系 Agent

MCP Servers

Development / FeedbackCycle

Resources

GoogleWorkspace

Transcribe

Confluence
kintone
SAP Concur
ORACLE NETSUITE

サードパーティ製アプリ

法務 SDP
Findout
Moonshot
TALENTBASE

Jira

内製/社内データ

AI Workspace を Workspace たらしめるもの

AI Clients

- ✓ LLM の多様性を受け入れる
- ✓ 既存 WS との親和性
- ✓ コストパフォーマンス
- ✓ 保証 / 補償

AI Agents / MCP

- ✓ A2A / MCP への対応
- ✓ 開発・検証の容易性
- ✓ ポータビリティ
- ✓ 両手でのアクセス管理

Data Source

- ✓ 基幹システムへの接続容易性
- ✓ 3rd party コネクタブル

コングロマリットにありがちな多様性を維持しながら
事業単位でのセキュリティとガバナンスをカバーしつつ、
可用性と柔軟性を持つことが求められる

それはそれとして
AI Agent プラット フォームの技術的な良し悪しと
人間がそれを活用できるかは全く別の問題

02

なぜ企業の業務プロセス改善はうまくいかないのか？

AI ワークスペースのビルドトラップ



AI が登場する以前からある 業務のプロセスにのみ 注目して AI に置き換えるのは、

完成されたスパゲッティを小麦粉に戻そうとするのと同じである。

業務プロセス改善のよくあるビルドトラップ

現状の対象業務がどの様に行われているか
綿密に調査し、ボトルネック部分を
AI で置き換えられないか
担当者とボトムアップで検討する

細分化・分業化が高度に進んだ業務データは人間に対して 1:1
に属人的になり、人間と要件がボトルネックに
なっている

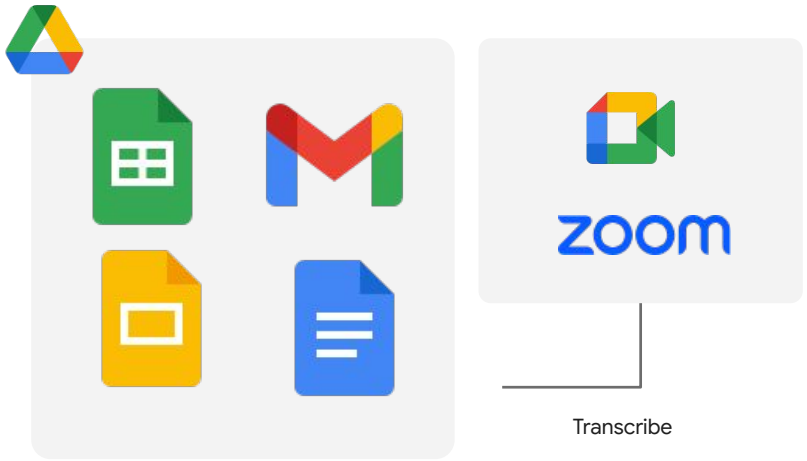
その結果、業務プロセスの枝葉から進めるため
AI による費用対効果が限定的に

業務プロセス x 業務データのサイロが大量に存在

業務アプリ

業務 / 事業データ

業務アプリは多岐にわたる



Google Workspace

Confluence

kintone

SAP Concur

ORACLE NETSUITE

サードパーティ

法務 SDP

Findout

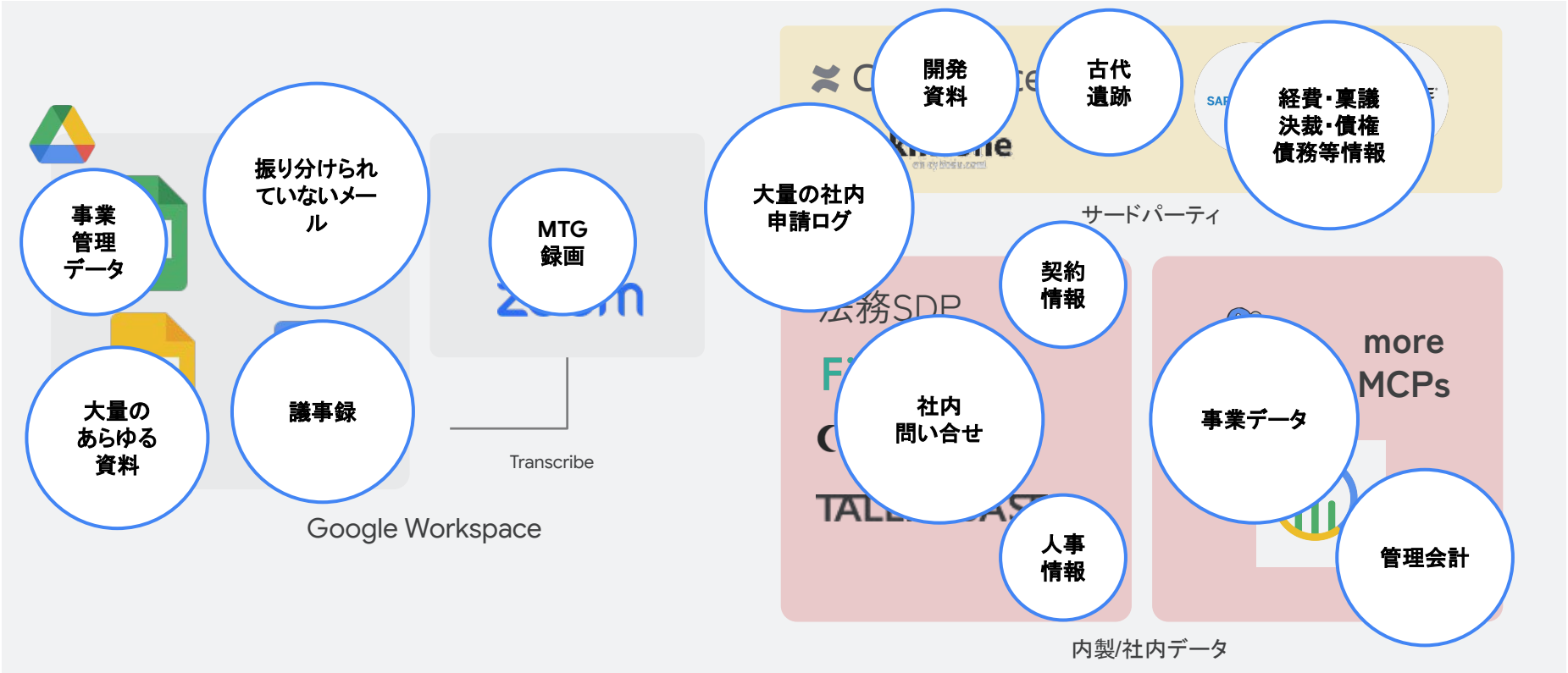
Moonshot

TALENTBASE

more MCPs

内製 / 社内データ

業務データのサイロはより深刻





皆さんが今、ブラウザで開いているタブの数は?

03

データを主軸においたコンテキストエンジニアリング　PoC / MVP

既存プロセス軸の　AI Agent やワークフローを作らない



AI 活用はデータ主軸で置く

人間が
やっている
マルチタスクは
所詮シーケンシャル

業務でどれだけ複雑で多様なデータを頭やブラウザで整理
しているのか？

既存の業務プロセスで利用する
「データ」を主軸に置くと
人間の限界を簡単超えられる

(1:n* 時系列) 情報を統合できるという
事実だけで、恐ろしくシンプルで強力

あるPJTの失敗要因を過去の週次定例MTG1年分全部読んで整理しろって人間には言えない

上流のサイロ問題を高次元に統合する

データサイロ化
業務アプリ分散課題



サイロの
高次元統合と
ビジネスプロセス
ワークフローの
根本的革新

- **複数のサイロ化した事業データ横断的に処理**
  - 分散したデータサイロを AI が横断的に情報統合し、
    事業開発体験の圧倒的向上
- **複雑なビジネスプロセスの統合、ガバナンスと効率性を向上**
  - 遵守すべき複雑難解なビジネスプロセスを
    自然言語ベースでワークフロー改革
- **開発効率の飛躍的向上**
  - 定型的・非生産的プロセスを AI が代替
  - 本質的技術課題・プロダクト価値に集中
  - フィードバックサイクルの高速化

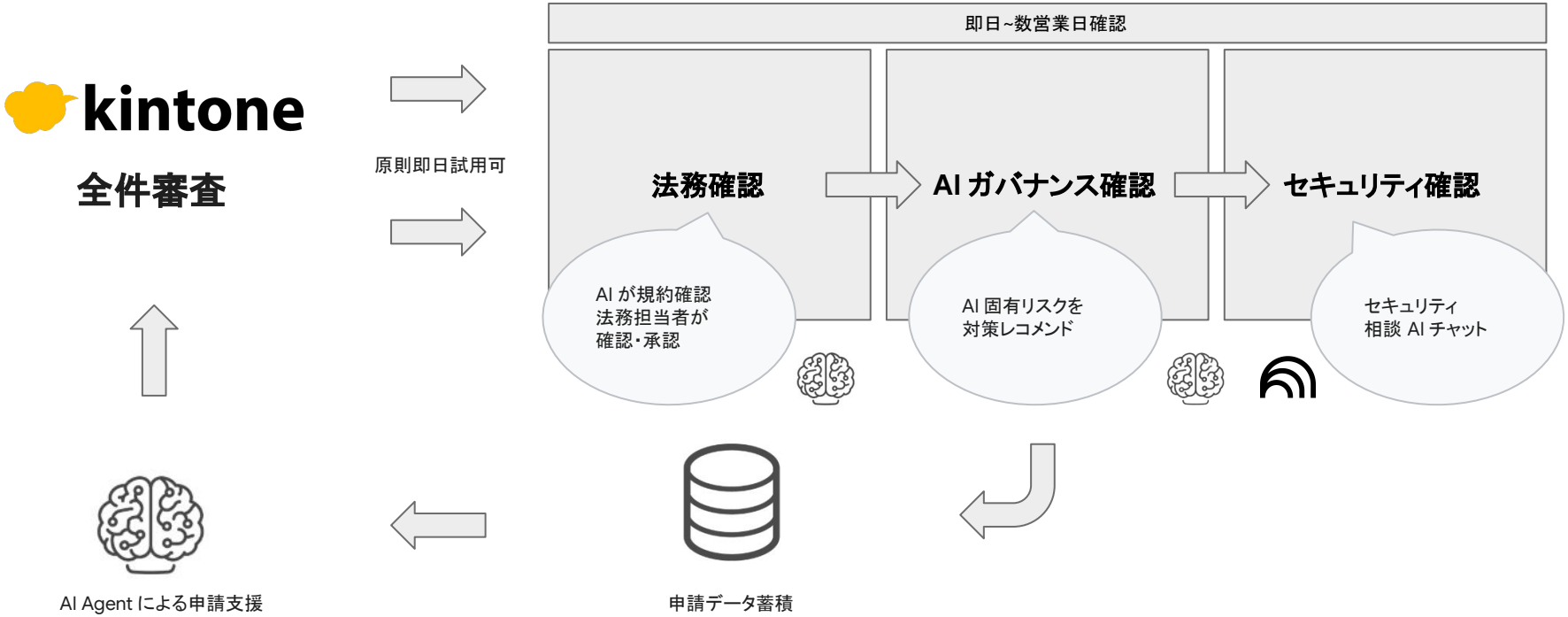
AI アドバンスドのアドホック事業分析

- BQ に蓄積されたサービスデータ
- ハイコンテクストな事業管理スプレッドシート
- メタ・コンテクストとしての
  - Confluence のサービス仕様
  - Meet の生成議事録
  - Google Slide の定例資料



短期・中期での事業 / プロジェクトの
進捗・健全性・リスクを俯瞰的かつ客観的に分析

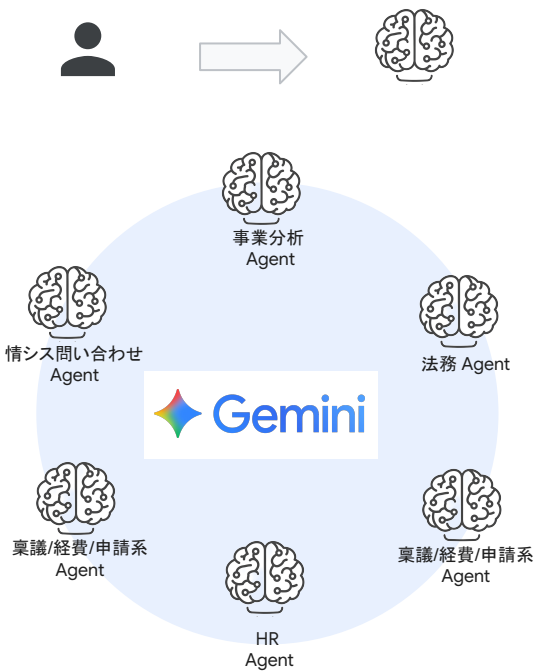
AI アドバンスドな包括的リスク確認



コンテキスト エンジニア リングから始める PoC/MVP

サイロから解放され
人間がデータドリブンに
アドホック分析。

コンテキスト
エンジニアリング
PoC / MVP = **いきなり**
AI Agent を作らない
AI Agent も**手段**



- PoC によってデータとプロセスを分離して考える
- データの抽象度はプロセスに依存してはならない
- コンテキストをどこの誰がどのレベルでもつのか？
  a. ユーザープロンプト
  b. システムプロンプト
  c. RAG / MCP

データ マネジメントとセマンティック　レイヤー

- 真の AI 活用には最重要
- サイロ化した業務データ (= 分散コンテキスト) のリレーションを張ることは、今は人間にしかできない
- 人間が人間のために作った暗黙的ハイコン テキストのドキュメントやベクトル空間でコンテキストを喪失した価値のない RAG は、全てここに帰結する
- データ モデリングとセマンティック レイヤー、そしてその抽象度を設計できるデータ エンジニアは日本では相当に稀有

まとめ

- 既存プロセス軸の AI Agent 開発は失敗しやすい
- データの源流から AI ネイティブになること
- データ エンジニアの需要は間違いなく伸びる

コンテキストとしてのGoogle Workspace

メタ コンテクストとしてのLooker Studio

データの源流であるBigQuery

それらとコスパよく統合できるGemini

結論
つよい

Thank you

